

2019 vol.46 秋号 源流からのたより

ぽたーい!

源流のひとしづく



CONTENTS

- ・ 事務局長コラム
- ・ 「源流学」②
- ・ 源流の主役たち
- ・ 川上村の道路元標
- ・ 吉野川紀の川しらべ隊
- ・ ミニ自然写真撮影講座
- ・ 源流の森づくり



森と水の源流館



公益財団法人吉野川紀の川源流物語
住所 奈良県吉野郡川上村宮の平
TEL 0746・52・0888
FAX 0746・52・0388
URL <http://www.genryuu.or.jp>
E-mail morimizu@genryuu.or.jp

川上村「源流の日」を考える。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事務局長 尾上 忠大

毎年11月16日は川上村「源流の日」とされています。2014年のこの日に「ゆたかなる 森がはぐくむ川と海」をテーマに開催された第34回全国豊かな海づくり大会において、川上村は放流・歓迎行事の会場となりました。現在の上皇・上皇后様をお迎えし、穏やかな晴天のもとあゆとあまごが放流され、村にとっては忘れられない日になりました。これを記念し、またさらに海とつながる源流域の水環境を守っていくことの大切さをあらためて考える一日として、翌年記念日登録がされました。

その日を意識することから…

この財団の活動においても「源流の日」を大切にもらえて、これまで記念の行事を催してきました。この日をみなさんと祝い、その意味を考えることはもちろんですが、告知やPRを通じて「また、その日がやってくる」ことを意識することが重要と考えました。

2015年 吉野川紀の川流域学習会

村民とともに、水源地としての役割を再認識することを目的に毎年実施する学習会をこの日に開催。自ら暮らす地域を学ぶ意味で、川上村寺尾出身の大和ハウス工業株式会社の創始者である石橋信夫氏の功績とその中の川上村への思いを知るため奈良市内の同氏記念館を訪ねました。そこで目にした『水五訓』を前に参加者の多くが足を止め、水とのつながりを感じました。

- 一、自ら活動して他を動かすは水なり
- 一、障害に遭って鍛えその勢力を百倍するは水なり
- 一、常に己の進路を求めてやまざるは水なり

〔水五訓〕から

2017年 源流の日コンサート

川上村のコーラスグループ「華音」の指導者、松谷文美さんによる歌のコンサートを源流の森シアターで開催しました。会場に入りきれないほどの方々にお集まりいただきました。「森は水の源、水は命の源。その尊さを思っ歌いたい」という言葉とともに、やさしい歌が響きわたりました。

シアターの多面的活用を試みとしても実施しましたが、その後、何度か行われて盛況となる音楽等のイベントの原点となりました。



2018年 源流の日記念授業

和歌山県立自然博物館の協力を得て、村の保育園・小・中学校のみなさんに海を感じ、海とつながる水源地の役割を考えてもらう事業を企画。「森と水の源流館が水族館になる一日」と題し、館内で移動水族館と講座を開催しました。

ヒトデやウニ、ナマコ、マツカサウオなどの海の生き物に触れ、観察。人



気プログラム「ちりめんモンスター」（ちりめんじゃこの中に混じる小さな生き物探し）などで、森がもたらす栄養が川を通じて海へ流れ込む仕組みも学習してもらいました。

今年は川上村130周年

海づくり大会から5年目の今年は、川上村の村制施行130周年の年です。当日は大きな村のイベントが開催される予定です。私たちも参加しますので、どんな一日になったか、またご報告します。そして私たちは小さくとも、いろいろな方のお借りしながら、一年、一年、意識することをつけていくよう努力したいと思います。

11月16日は、「源流の日」。もうす
でに、みんな知ってくれとるか
な。これはなあ、2014

年11月16日に川上村で開かれた「第34回
全国豊かな海づくり大会」に、当時の天
皇陛下と皇后陛下がご臨席くださり、大
滝ダム湖に、鮎とアマゴの稚魚を放流し
てくださった日。そのことを記念し
て、村の条例で「源流の日」に制定され
たんや。もちろん日本記念日協会にも登
録されたそうや。

海
のなない奈良県での開催、それ
も川上村での開催、ほんまう
れしかつたなあ。あのとき、
両陛下が稚魚を放流するときに使われた
放流台やけどな、これは「修羅（しゅら）」
といってな、その昔、山から伐採された
木材を搬出するために使われたもんなん
や。木のための巨大な滑り台といつても
ええんかな。もう今では、まったく見
ひんようになって、林業に携わる若い
人も知らんと思うけど、昭和の初めごろ
まで使っていたもんな。

今
回、稚魚をダム湖へ放
流するにあたって、せつ
かくなら人工林発祥の
地であり、林業地の川上村なら
ではのものとして、修羅でして
みたらどうかと、提案してみた
んや。修羅を作ることで、その
技術も、次の若い世代につなげ
ていける。もうわしらぐらいし
か、その技術を知らんからなあ。
放流行事がきっかけで教えるこ
とができるんやったら、ええ機
会やなあと思つたんや。

森と水の源流館一杉の湯間の遊歩道に設置してある
レプリカの修羅



森と水の源流館一杉の湯間の遊歩道に設置してある
レプリカの修羅

修羅は、間伐材と、藤
や葛（かずら）など
のツル材料で作る。

伐採した木を滑らせるときに
は、油（菜種油）を撒いて、木
を滑りやすくするのが、終戦
後は物不足で油が手に入らず、
代わりに水を撒いたんや。大人
たちが、6mほどの幅の修羅に、
ひしゃくの水をまんべんとま
く撒いていた。

わ
しも、山仕事を
めた新米のころやっ
たから、藤や葛の採
取から、谷からの水汲みをやら
されたけど、この水汲みが一番
つらくてしんどかったことを覚
えている。

そ
して木材の運搬を
え、目的を果した
修羅は、最後にヨキ
（斧）でツルを切り、ばらして、



②「源流の日」

達ちゃんが語る

子どもたちに伝えたい「源流学」

木材は足場や稲掛けなどに再利
用する。まったくもってエコな
仕組みだった。

い
まはその修羅の一部分
を川上村の丹生川上神
社上社の境内に、模型
を森と水の源流館に置いてるさ
かい、興味を持ってくれた人は、
ぜひ、いっぺん見にきてほしい
と思う。

さ
とやけど、みんな自然
とか、源流とか、身近
に感じることはあるかな。世間
では、よう自然との共生という
言葉が使われているけれど、は
たして、どれだけの人が自然と
共生しているんだろうか。

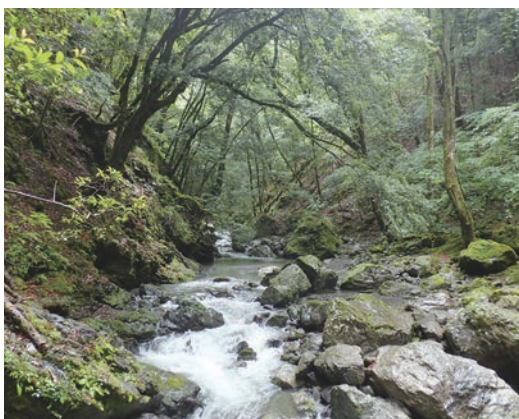
世
界の国の中でもドイツ
とか、スウェーデンな
んかは、森林に関心の
高い国でドイツの人は毎週日曜
に森を訪れる人が、人口の60%
を越えるのに、日本人は10%に
も満たないという、アンケート
結果がある。自然は大事や、自
然は身近な存在やというわりに
は、この結果を見ると、いかに
日本人への自然への関心が薄い
か、お分かりだろうと思う。

い
まは、自然は自然でも、
きれいなテントに、き
れいな寝るところ、電
気もあるし、料理もせえへんでも
手軽に手に入るし、ほんまええ
とこどりのキャンプが流行って

いるそうや。テレビのコマーシャルでも
よう見るわ。

で
もそれは、人の手が入った自
然で、ほんものの自然ではな
い。その区別がつかなくなっ
てきているともいえる。オートキャンプ
や森林公園がまさしくそれや。管理責任
を任された人がいて、その責任において
利用者の安全が守られているが、そのま
まの自然の山や川は、大雨が降れば激流
が走るし、山崩れもある。

そ
こは自分で自分を守るべきと
ころで、安全を他人任せにし
ない態度は自然と向き合う上
の前提であり、鉄則でもある。自分た
ちが自然の中にいるという認識を忘れ
たらあかん。日本の国土を代表する自
然はいまでもなく山であり、まずは
一人ひとり自然と向き合うことが大事
なんや。源流の日には、水を生み出す、
その山と触れ合う日でもあることを覚
えていてほしい。

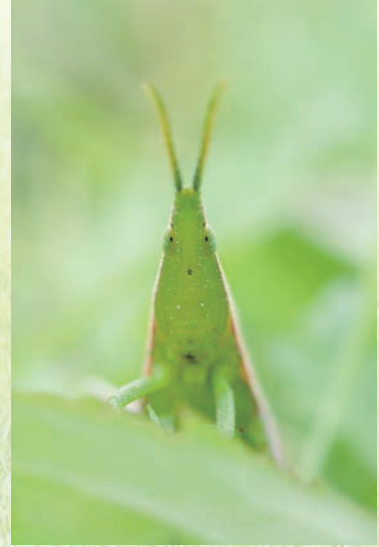


吉野川源流一水源地の森

※連載では、「聞き書き」でコミュニティライターの西久保智美が担当します。



長三角形の顔のショウリョウバッタ



三角形の顔のオンブバッタ



オス



メス



四角い顔のトノサマバッタ



四角い顔のキリギリス



馬面のハヤシウマ



最近近畿地方に侵入してきた外来種、アカハネオンブバッタ。
後翅が赤いことが、オンブバッタとの大きな違い。オンブバッタの後翅は透明。



バッタの顔は、○△□??

伊藤 ふくお

バッタと聞いて、私がイメージするのは草丈が低く土の部分が見える草はらですが、皆さんはいかがでしょうか。このような草はらに足を踏み入れると、バッタの仲間が飛び出します。キチキチキチとはばたいて遠くへ逃げるものや、ピョンとひと飛びして隠れるものさまざまです。川上村には、あきつの野公園や旧白屋地区、吉野川には所により河川敷などの草はらがあります。実際に行ってみると、トノサマバッタの仲間やキリギリスの仲間やコオロギの仲間を見ることができます。今の季節でしたら、コオロギの仲間は姿が見えなくても鳴き声で名前がわかります。でも、わざわざ遠くへ行かなくても、庭や空き地など少しでも草が生えているところにはバッタ・コオロギ・キリギリスの仲間が棲んでいます。

数年前、源流館主催の夏の観察会で、大滝ダム湖の龍神さまのまわりの草地に多くのエンマコオロギやオンブバッタを見ました。ご存知のようにダムの貯水量が増えれば水没してしまう危うい環境にも関わらず、前年の秋に土の中に産卵され翌年の春、卵から孵化したエンマコオロギたちが親になったのです。

エンマコオロギは、今の時期コロコロリィリィと昼間でも鳴いているので、身近にいること気づきます。他には、夜の間リィリィリィリィリィリィと鳴き通すツツレサセコオロギなどがあります。エンマコオロギは、地面の底地獄から聞こえる閻魔さまの声。ツツレサセコオロギは、破れた着物などをつづる夜なべ仕事の応援ソングとも言われています。鳴くのは、オスでメスは鳴きません。このエンマコオロギを見かけたら捕まえて顔を見てください。私には、丸い顔に太い眉の閻魔さまに見えます。

草はらからキチキチキチキチと飛び出すのは、体の大きなショウリヨウバッタのメスです。精霊を迎えるお盆の時期に成虫を見られることからセイレイ=ショウリヨウでその名になったと言われています。愛称も多く、飛ぶときの音からキチキチバッタ。後脚を持つと体を上下させることからハタオリ（機織）バッタと呼ばれ子どもの遊び相手でもあります。この、ショウリヨウバッタを捕まえて顔を見ると愛嬌のある三角形です。

丸、三角ときたので、四角を探してみました。これぞバッタの王様、トノサマバッタの顔が四角い。ちなみに、ベンジョコオロギと呼ばれる、カマドウマの仲間は馬面で、暖かくて湿気のあるカマド近くに棲んでいるから寵馬なんだ。

(いとうふくお：昆虫生態写真家)



丸い顔のエンマコオロギ

ひし形の顔のミツカドコオロギ

その三

歴史に詳しい職員、成瀬匡章が、吉野川・紀の川流域の遺跡について紹介します。

「川上村の道路元標」

役場前の植え込みに、一辺25センチ、高さ60センチ程の「川上村道路元標」と刻まれた石柱が建てられています。

この「道路元標」とは、道路の起点を示す標識のことで、日本では明治6（1873）年の道路里程調査に基づいて、東京の日本橋と京都の三条大橋を起点とし、各府県庁所在地に設置されました。

大正8（1919）年、各市町村にも道路元標が設置されることになり、大正11（1922）年に規格が定められ、各市町村の庁舎前や主要道路の交差点などに設置されていきました。川上村でもこの頃に建てられたと考えられます。



図1 川上村役場前の道路元標

奈良県で最初の道路元標は、明治21（1888）年に奈良市橋本町の三条通に建てられた「奈良縣里程元標」です。

木製の標識であったため、いつの頃からか礎石だけが残る状態になっていましたが、平成22（2010）年に平城遷都1300年を記念して、地元自治会によって興福寺南円堂と三重塔の間にある石段の下に移転復元されました。

復元された「奈良縣里程元標」は、高さ約3メートルのヒノキの柱で、正面には「奈良縣里程元標 橋本町」と記され、側面には県内各地の地名と、元標からの距離が記されています。メートル法導入前の標識なので全て尺貫法で表記されています。その足元に寄り添って建っているのが大正時代に設置された奈良市の道



図2 復元された「奈良縣里程元標」(正面と側面)

路元標で、「奈良縣里程元標」と併せて現在地に移転されました。

道路元標は、昭和27（1952）年の道路法改正により設置義務が無くなること、埋められたり撤去されたりして多くが失われました。現在、奈良県内に残っているのは、154本中69本といわれています。前述の奈良市の道路元標も、昭和63（1988）年には当て逃げにより、折られてしまうという災難に遭っています。

川上村の道路元標も、丹生川上神社社の川下側、役場の正面に向かって建てられていましたが、昭和63（1988）年には頂部10センチ程を残して埋められており、さらに大滝ダムの工事が進む中で完全に埋められてしまいました。そのまま「おおたき龍神湖」の底に眠るところを、幸いにして救い出され、現在地に建て直されました。

川上村周辺では、吉野町の上市郵便局前の蛭子宮境内（旧上市町）、宮滝駐在所前（旧中荘村）、新子駐在所前（旧国栖村）、銅の鳥居前（旧吉野村）などの道路元標が残されています。これらの道



図3 「上市町道路元標」
(吉野町上市 蛭子宮境内)

路元標に記された町村は、この1世紀の間に無くなってしまいましたが、川上村の道路元標は、移転はしているものの、役場の前にずっと立ち続けています。

2019年は、川上村が誕生してから130年目の記念の年です。道路元標は面白い形をしているわけではなく、刻まれているのも標識としてありきたり文字に過ぎませんが、ほぼ1世紀にわたり、川上村とともに歩んできた証人として、ずっと大切にしていきたいものです。

参考文献

上田倅弘1990『道路元標』を尋ねて』弘道社
橋本町自治会・三条通り橋本商親会
2010「奈良縣里程元標」(解説板)

吉野川紀の川しるべ隣

夏の虫を

7月13日(土) しるべよう

源流館から169号線を南へ車で移動すると国道が直角に曲がるところの川向に北和田の集落があり、グフチョウの生息地でもあるこの地域には、様々な昆虫が見られます。

昨年は、春にグフチョウを探しながら昆虫などの観察をしました。今年は、梅雨の真っ只中7/13の午後から、雨を心配しながらふれあいセンターを出発、川沿いを散策しました。施設の植え込みでは、キリギリスと

コアシナガバチの巣、ツツジの葉を幼虫が食べて育つハバチの仲間ルリチュウレンジが見られました。道沿いのカラムシの葉を綴った中にいたのは、アカタテハの幼虫。崖に生えたコアカソには、サカハチチョウの幼虫が食べた跡が見られたので、今



ムモンホソアシナガバチ ナガヒラタアブ コアシナガバチ

頃は蛹でチョウになる準備をしているのかも。
コンクリート壁の水抜き穴を見ていくと、ジムグリらしき蛇が。穴から出してみるとシロマダラと呼ばれている奈良県レッドデータブック絶滅危惧種でした。
雨を心配したり、ヤマビルに好かれた子もいたりしましたが、楽しい観察会でした。

植え込みにいたキリギリスを撮影しました。

写真1. おとすを見分けるには、尾端に産卵管があるかどうかで判断できますから、尾端がしっかりわかるようなカメラ位置を見つけます。

写真2. 自然光だけで撮影すると、この日は曇り空だったので少し濁った暗い感じの写真になります。

カメラ内蔵のストロボを使い撮影してみると、メリハリの利いた写真になりました。

皆さんは、どちらの写真がお好みでしょうか。

(伊藤ふくお・昆虫生態写真家)

自然写真撮影講座



写真1 キリギリス♂

2019年7月13日 北和田

PENTAX WG-III ISO-125 320/1 秒
f 4.2

写真2 キリギリス♂

2019年7月13日北和田 ストロボ同調

PENTAX WG-III ISO-125 320/1 秒
f 6.1 ストロボ発光

見つけた水生生物

きれいな水 (13種)

カジカガエル、フタスジモンカゲロウ、ニンギョウトビケラ、オジロサナエ、カワヨシノボリ、アサヒナカワトンボ、タイリククロスジヘビトンボ、モンキマメゲンゴロウ、ナベブタムシ、ヒゲナガカワトビケラ、クロサナエ、サワガニ、フタツメカワゲラ

ややきれいな水 (4種)

カワナナ、オオアメンボ、カワムツ、ダビドサナエ

汚れた水 (2種)

ガガンボの幼虫、シロフアブ

とても汚れた水 (0種)

今年もトヨタ自動車協賛の「TOYOTA SOCIAL FEES!! Presents」吉野川環境保全プログラム「きれいな吉野川を未来に残そう」とのタイアップで奈良新聞社との共催で、蜻蛉の滝周辺の音無川で開催しました。午前午後で合わせて165名の参加者で、講師の谷幸三先生の指導で水生生物の観察を行いました。今年は東京オリンピックの前年ということで、2度のオリンピックに出場した馬術の弓良隆行選手をゲストに迎えました。

吉野川紀の川しるべ隣

水生生物を

8月3日(土) しるべよう



観察後は谷先生による環境学習で水を守るために何ができるかを学びました



谷先生の指導で水生生物を観察

結果は、きれいな水に生息する水生生物、ややきれいな水に生息するがほとんどで、きれいな水が流れていることを確認しました。
ご協力いただいた奈良県内トヨタ自動車関連企業の皆様、ボランティアの皆様、ありがとうございました。

源流学の森づくり

4月27日(土)

源流学の森づくりとは、30年ほど前に伐採され、再生しつつある天然林を立派な源流の森に戻そうという取り組みです。森と水の源流館の開館の少し後から始まりました。これまで、元館長の辻谷達雄さんをはじめ、林業に従事されてきた人や川上村で暮らしてきた人々に指導いただきながら、藪のよ

うな状態から木の種類や大きさも多様になるように間伐し、森が再生する助けとなるよう実践してきました。他にも、林道や歩道の補修、拠点の山小屋の建築、防鹿柵の設置なども、試行錯誤しながら進めています。周辺には和歌山市や関西電力労働組合の方々が手

入れする森もあり、たくさんの協力や応援のおかげで徐々に森の機能は回復してきています。しかし、伐採跡地の面積からするとほんの一部にすぎません。「吉野川源流—水源地の森」に比べ



源流学の森途中の土砂崩れ



橋の修理

るとまだまだ弱いと感じるところもあります。林道三之公線の終点、山の神の祠のところでもちょうど川が合流します。大雨の後、水源地の森側からの水は澄んでいるのに、源流学の森側は濁っていることが多々あります。過去に設置した土砂流出防止柵ごと崩れた箇所もあり、2〜3年前から現地へ行くことが難しくなってきました。

今回も源流学の森へ行くことができず、集まった7名の源流人会員さんと以前に間伐した木材を使って橋を修理しました。

一、私たち川上は、かけがえのない水がつけられる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。

(川上宣言より)

これを実現していくことは一筋縄ではありません。100年後、思い描くのは木材になる針葉樹、薪や炭になるカシの木、山菜のリョウブやトキノキなどのある源流の森です。流域も都市の人も集まって自然観察や森とふれ合える場所にしたいと考えています。源流の森を守り、これまでに関わってきた人たちの思いを未来へと伝えていけるよう、一緒に活動してくださる仲間と皆様からのご意見を募集しています。

次回の活動は11月23日(祝)の予定です。



昼食の山菜天ぷら、廃油は村内の回収窓口へ



ソバの種まき



里山林の散策と自然観察

源流会の森づくり
山野草の里づくりの
交流会 in 桜井市
 8月24日(土)

吉野川紀の川源流の川上村で活動する当館の源流学の森づくりと、桜井市三谷で大和川源流行きの保全活動を行う山野草の里づくりの会さんとの交流会が、桜井市で開催されました。平成28年度から実施し、今年で4年目となります。7/27に予定していた川上村での交流は台風のため、中止になり、今年度はこの1回の交流となりました。

当日は、源流人会他から、3名の参加者とスタッフ3名の6名で訪問しました。ソバの種まき、昼食会、フィールドの散策を行い相互の交流を深めました。

三谷地区は里山が広がり、吉野川源流部とは地形、地質、植生も違いますが、源流の価値に気付き、その自然環境を守っていくという思いは一つです。各地で源流を守る取り組みがあり、励まされま

す。これからも切磋琢磨して活動を盛り上げていきたいと思えます。

源流人募集



源流人とは

かけがえのない水を生む源流の自然を愛し、源流を守り、育てる人です

源流人会とは

集い、話し、遊び、学び、考え、触れ、交流し、参加し、喜びを分かち合いながら、源流を守り、育ててゆこうとする会です

ともに源流学を楽しみ学ぶ仲間を紹介ください

個人	2,000円
家族	3,000円
学生	1,000円
団体	10,000円

年会費 郵便振替 00940-1-331163

もりもり 水源地の森守募金

にご協力ください

ありがとうございました。

平成30年度、225,571円の森守募金をお預かりしました。奈良県内すべてと、和歌山県内の紀の川流域市町村の小学4年生全員に配布した教材印刷費や源流域での斜面崩壊対策費用にあてさせていただきました。今後ともご支援をよろしく願います。



郵便振替 00950-2-331164 「水源地の森守募金」あて